

はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」

非公開茶室の見学



実行委員会が実施する取組

非公開茶室の見学（山崎コース）を開催しました。

平成 24 年 2 月 24 日（金）

参加者 30 名（「募集要項」に基づきご応募いただいた方から抽選）

【集合・受付】

八幡市立松花堂庭園・美術館 1 階講習室前に集合・受付。
実行委員会アドバイザー岩崎正彌氏挨拶。解説案内者紹介。



なかむら まさお

◎ 中村 昌生 氏（京都工芸繊維大学名誉教授、財団法人京都伝統建築技術協会理事長、茶の湯文化学会参与）

1927 年愛知県生まれ。現在、京都工芸繊維大学名誉教授、福井工業大学名誉教授。多年にわたり日本建築の伝統追求のため茶室・数寄屋の研究に専念。この間日本建築学会賞、日本芸術院賞など受賞。伝統建築技術の継承発展のため、同志と財団法人京都伝統建築技術協会を設立し、現在理事長をつとめる。多数の著書の中で「図説茶室の歴史 基礎がわかる Q&A」、「数寄屋と五十年」（淡交社刊）などが入手しやすい。作品集に「数寄の空間」（淡交社刊）等。

いわさき まさや

◎ 岩崎 正彌 氏（実行委員会アドバイザー、皇學館大学現代日本社会学部伝統継承文化創造コース准教授、茶の湯文化学会理事）



岩崎アドバイザー

中村昌生氏

美術館展示室を見学。川畑学芸員によるギャラリートーク。



しょうかどう

【茶室松花堂（京都府指定有形文化財）】

松花堂昭乗が泉之坊へ退隠し造立して松花堂と称した方丈の草庵が、松花堂庭園・美術館の苑内に移されている。昭乗の晩年に到達した独自の茶境を象徴している。

なお、苑内には他に、千宗旦の四畳半を復原した「梅隠」と、小堀遠州が滝之本坊に建てた茶室（四畳半台目）を復原した「松隠」がある。



【昼食「吉兆」松花堂弁当】



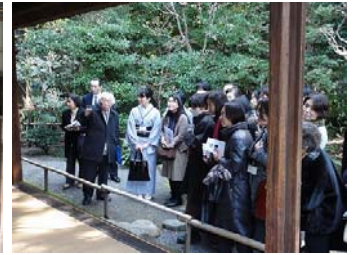
松花堂弁当の由来

ももとは農家の種子入れだった器を、江戸時代に活躍した石清水八幡宮の社僧である松花堂昭乘(1582~1639)が取り上げ、小物入れにしていたと伝えられています。吉兆の創業者・湯木貞一がそれを弁当箱に考案したものです。(吉兆パンフレットより)



【水無瀬神宮 茶室灯心亭 (重要文化財)】

後水尾上皇が水無瀬家に建てられた茶室が、水無瀬神宮の境内に現存する。茅葺の田舎家風な佇まいのなかに、貴族らしい趣味の溢れた茶室が組み込まれている。水屋の棚にも優美な工夫がみられる。

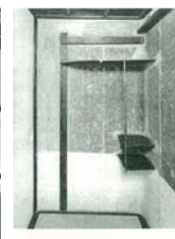


手水舎

名水「離宮の水」
名水百選「離宮の水」は、環境省より認定された大阪府下唯一の名水である。鎌倉時代、後鳥羽上皇が水無瀬離宮を造営したことで知られ、その後離宮跡に神宮が建てられ、その水無瀬神宮の一隅の手水舎の井戸から湧き出ている水が「離宮の名水」である。(水無瀬神宮パンフレットより)

【妙喜庵 茶室待庵 (国宝)】

千利休の作と伝えられてきた唯一の遺構である。二畳隅炉、丸太柱で荒壁仕上げの壁に囲まれた小空間に、侘茶の理想境を創出した。利休の追究した侘茶のための茶室として、初めて試みた作品と考えられる。利休の侘茶に対する烈しい気魄がこもっている。



隅口から内部正面をみる

勝手三重欄



出典：中村昌生著『茶室大観 I』(創元社刊)

待庵 平面図

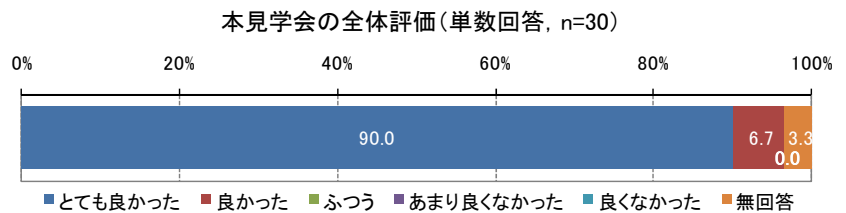
【閉会】

アンケート記入、回収のあと解散。

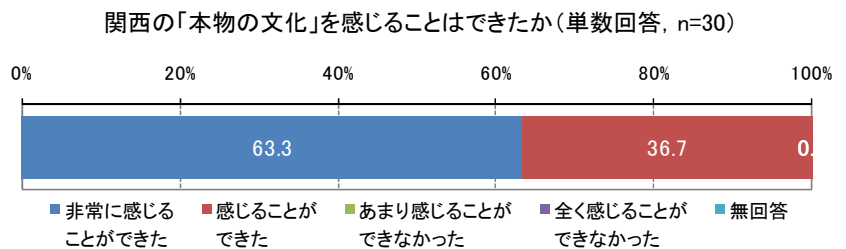
【アンケート結果】

本コースの参加者に対しアンケートを行い、結果は以下のとおりであった。

今回の見学会全体を通しての評価は「とても良かった」が 90.0%、「良かった」が 6.7%であった。



今回のプログラムを通じて、関西の「本物の文化」を感じることはできたか、という問いに対しては、「非常に感じる事ができた」・「感じる事ができた」合わせて 100.0%の人が感じる事ができたと答えた。



今回のプログラムは、関西の「本物の文化」を発信するプログラムとして有効と思うか、という問いに対しては、「非常に有効と思う」・「有効と思う」合わせて 90.0%の人が有効と思うと答えた。

